
第5回 長瀬町小中一貫教育 検討委員会

開催：令和7年6月25日



本日の 主な内容

1. 長瀬町小中一貫教育に係る研修会について
2. 坂戸市と日高市への学校視察について

1. 長瀬町小中一貫教育に係る研修会の開催

日時：令和7年3月18日(火)

午後6時開会

会場：役場3階 大会議室

講師：埼玉県教育局北部教育事務所副所長兼秩父支所長 市川篤史先生

出席：教育委員、小中一貫教育検討委員会委員、小中学校の教職員
など約40名

講 話

小中一貫教育

埼玉県教育委員会から初任者向けに「教師となって第一歩」というのを毎年ご案内しており、小中一貫教育について分かり易く取りまとめているので、その中からかいつまんで説明します。

小中一貫教育とは、小中連携のうち、小・中学校が9年間を通じた教育課程を編成し、それに基づき行う系統的教育のこと。

小中一貫教育が求められている背景としては、小学校から中学校に進学する際の接続が円滑なものになっていないことが考えられます。

児童が小学校から中学校へ進学する際に、新しい環境での学習や生活に移行する段階で、いじめや不登校等が増加する、いわゆる「中1ギャップ」が指摘されることがあります。

（出典：令和6年度「教師となった第一歩」埼玉県教育委員会）

小中一貫教育の推進に至る経緯

小学校と中学校の連携について検討されるようになったのは、平成22年の中央教育審議会での答申『新しい時代の義務教育を創造する』において、義務教育の質の向上が求められました。

すでに平成11年から中高一貫教育の重要性について叫ばれるようになっていましたが、その推進においては、小学校と中学校、そして幼児期の教育と小学校というように、学びや育ちの連続性で捉えることの必要性が示されました。

このあたりからかなり埼玉県の中で、グローバル化や情報化の進展、核家族化や少子化の進行といった社会状況が急速に変化するなかで、学校の現場でも児童・生徒を取り巻くさまざまな課題が多様化・複雑化しており、その解決には、幼保から小、そして、中、高と連続した教育が必要であると示されました。

(出典:文部科学省『新しい時代の義務教育を創造する(答申)』)

『幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方に関する調査研究協力者会議』平成22年)

小中一貫教育が必要とされている問題点・課題点

- ① 新しい環境での学習や生活に不適応を起こす「中1ギャップ」
- ② 学習・生徒指導面での小・中学校の接続が円滑でない
- ③ 上級生や教職員との人間関係の変化による不安も影響されている

(出典:文部科学省『小・中学校間の連携・接続に関する現状、課題認識』
『児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査』)

小中一貫教育の目的

① 小学校から中学校への接続を円滑化する

学習や人間関係といった環境の変化を軽減し中1ギャップの解消につなげる
各児童・生徒の発達に合わせた指導を行う

② 児童・生徒がさまざまな教職員、児童・生徒と関わる機会を増やす

地域コミュニティの弱体化、核家族化、少子化の進行による人間関係の固定化を避ける
かかわる相手を増やすことで学びの機会や視野を広げる

③ 教育内容や学習活動の量と質を向上させる

小学校と中学校の教員が連携することで、9年間の義務教育の全体像を把握する
長期的な視点から学習・生徒指導の工夫に取り組む

※ 小学校の良さを中学校に、中学校の良さを小学校にという、お互いの良さを合わせていける。

(出典:日本教育新聞)

小中一貫教育に期待できる効果

- ① 中学生の不登校出現率の減少
- ② 市町村または都道府県独自の学習到達度調査、全国学力・学習状況調査における平均正答率の上昇
- ③ 児童・生徒の規範意識の向上
- ④ 異年齢集団での活動による自尊感情の高まり
- ⑤ 教職員の児童・生徒理解や指導方法改善意欲の高まりや意識面の変化

特に小学校段階の中学生の先輩の良き振る舞いなどを学ぶことができたり、先輩である中学生も後輩である小学生の前でしっかりしなければならない、お互いの規範意識の向上が見込める
教職員の児童・生徒理解、そういった部分を高めることができたり、指導方法の改善による意識面の変化も望めるのではないかと

(出典:日本教育新聞)

埼玉県内ではどんな施設があるのか

施設一体型小中一貫校

坂戸市立城山小学校と城山中中学校が埼玉県内では初の小中一貫校となる

義務教育学校

春日部市立江戸川小中学校が埼玉県内では初の義務教育学校となる

その後、日高市で義務教育学校(日高市立武蔵台小中学校・日高市立高根小中学校)2校が開校した

法的な位置づけとして

① 施設一体型小中一貫校

坂戸市立城山小学校・城山中学校は、通常の小・中学校の範囲での連携

② 義務教育学校

学校教育法が平成27年に一部法改正により、義務教育学校という制度が創設され、小学校と中学校の教育を一貫して提供することを目的として、平成31年に春日部市立江戸川小中学校が創立
令和5年と6年に日高市立武蔵台小中学校、日高市立高根小中学校の2校が創立された

③ 校長

坂戸市立城山小学校・中学校は学校ごとに校長先生2名のところ、校長先生が兼務しており1名となる
春日部市と日高市の場合は、校長先生が1名となり、もともと中学校籍の校長先生となっている

④ 複数教職員

教職員は小学校と中学校を合わせた形になるので、小中一貫校も義務教育学校も教頭先生2名、養護の先生2名、事務の先生2名となっている
坂戸市の場合、校長先生が兼務なので小学校に他1名加えることができる
義務教育学校でも同じ仕組み

法的な位置づけとして

⑤ 定数

小学校1校と中学校1校を義務養育学校1校に移行する場合、統計としては同じ定数となり差はない
日高市の義務教育学校は前期課程を小学校で6学級、後期課程を中学校で3学級、それに特別支援
は前期にあたる特別支援ということで知的1学級と自閉症1学級で2学級
後期にあたる特別支援ということで知的1学級と自閉症1学級で2学級、全部合わせて13学級とな
り、13学級にあたる定数の計算で教職員の配置が決まる
これが通常の学校の配置と変わらない

特色ある教育

- ① 坂戸市では9年間を、発達段階の4(1～4年)・3(5～7年)・2(8・9年)制で設定している
1年～4年を45分授業、5年～7年までを学級担任制と教科担任制の授業の内容を45分と50分の授業の組合せをして併用している
同じようなことを春日部市と日高市でも行っている
- ② 春日部市では2～6年一部教科担任制、5・6年50分授業、1・2年英語タイムがあり異学年交流によって精神的な発達や社会性の育成等の効果が期待される
日高市では7～9年50分授業、同様に異学年交流に期待
- ③ 日高市立武蔵台小中学校では、5年生から部活動への入部を許可している
部活動は中学校のものだけではない
小中一貫校であれば柔軟に取り入れることでそれが可能となる
- ④ 日高市の2校では「ふるさと科」という総合的な学習の時間を核とした新教科を設けている
文科省の教育課程の特例校と同じ扱いで、上限10%の範囲で実数の増減ができる
国語を何時間か減らし、理科を何時間か減らすなどで、総合時間に上乗せするなど義務教育学校では行うことができるということで、日高市ではウリにしている
- ⑤ 日高市立武蔵台小中学校では、制服自由化となっている

期待される効果

① 自尊感情の育成

多様な異学年交流を工夫することで自己肯定感が生まれ、下級生への慈愛や利他の心、上級生への尊敬や畏敬の念が育まれる

② 小中を一体として捉える教育の推進

「目指す15歳像」を設定してその実現を目指すためには、小中の教職員が所属感を高め、学習指導や生徒指導において互いに協力し、責任を共有して臨むことが重要である
そのためには組織体としての一体感を醸成し、義務教育9年間の系統性・連続性を重視した教育課程の構築が必要である
各教科等における系統性を明らかにしたカリキュラムの作成や、教科内や教科間の学習内容の関連性を意識して指導順序・指導内容を入れ替えたり、理解が難しく生徒がつまずき易い内容は、後の学年でも繰り返し指導をしたりするなどの工夫が可能となる

期待される効果

③ 小中ギャップの緩和・解消

小学校と中学校間の段差を緩和することで、小学校教育から中学校教育への円滑な移行を促すことが可能となり、中1の壁や小中ギャップと呼ばれる問題が緩和・解消する効果が期待される

④ 異学年交流による精神的な発達

1年生から9年生までの児童生徒が学校行事などを通じて異学年交流を行うことによって、上級生から下級生に対する思いやりの心、上級生・下級生の規範意識、下級生から上級生に対する憧れの気持ちなどの醸成が期待される
異学年交流によって精神的な発達や社会性の育成等の効果が期待される

⑤ 継続的な生徒に対する指導

小学校と中学校が1つの学校という意識を持ち、9年間継続して児童生徒に対する指導が行われるため、教員間で児童生徒の情報が共有しやすくなり、児童生徒の個に応じたきめ細かな丁寧な生徒指導が可能となる

課 題

- | | |
|---|---|
| ① | それぞれの小学校、中学校は別々でしたが、新年期から一緒になるというときに、小学校で行っている行事、中学校で行っている行事をどうやってすり合わせていこうか、そういったところの準備にはかなり時間を掛けたり労力が必要であったと聞いている |
| ② | 委員会活動なども小学校の高学年から委員会活動がありますが、中学校の委員会活動と合わせた形で新しいものを作り上げていく |
| ③ | 制服について、日高市の武蔵台小中学校では制服は自由化という形にしている
ただ、小学校と同じ流れで中学校になっても私服でというのなかなか難しいという問題も出てきているという話を聞いている
高根小中学校と江戸川小中学校は後期課程にあたるところで制服としている
一応、卒業式はないが前期課程修了式というもので区切りをつけている |

課 題

④

先生方の意識改革ということの難しさであったり、免許状の関係で義務教育学校は原則、小学校と中学校の教員免許を有することが求められる
中学校の美術の先生が美術の免許を持っていれば小学校の図工を教えることが出来る
中学校の音楽の先生が小学校の音楽を教えることが出来る
どちらかの学校の兼務するだとか、そういうことはせずに小中一貫校の中だけでやりくりできる
ただし、技術・家庭の技術の部分とかそのあたりは非常に悩ましいかなと思います
そこは特別支援のところに入って時間をある程度カウントするだとか、うまく工夫をしていかない
となりません

質疑応答

中学校の先生は上級免許を持っていれば小学校を教えることが可能だと言うお話を頂きました
小学校の先生の中にも中学校や高校の免許をお持ちの先生がいらっしゃると思います
そういった先生方は、一番心配なのは小学校で採用されているから中学校で教えて良いのかなという
疑問に思うところがあるのですが

先生方の中でやってみたいという気持ちがあれば、それをくみ取って相談しながら進めていく

私は小学校の免許しか持っていませんが、その場合は義務教育学校で勤務することは難しいということになりますか。

原則、小中学校の免許を持っていることになるのですが、当分の間はそれぞれ1つの免許で可能だということも明記されている

ですので先生が小学校の免許をお持ちであれば、義務教育学校とすれば前期課程を専門に授業を行って頂くことになりますが、同じ学校の中に教え子がいるので授業以外で関わっていくこともできます

質疑応答

小中学校で先生方の持ち時間というものが違う

小中学校となった時に学校の中で先生方の持ち時間の差が出たときに何か問題になっていることがあるのか

今の小学校や中学校での学校の規模が変わってくる、一般的には小学校の先生の持ち時間が多く、中学校の方が小学校より少し少ないというのが統計的な数値です

小中一貫校を進めていくうえで何か最大の課題なのか

財政的な面は相当難題になるだろうがそれを除いて先生が予想される課題は何でしょうか

日高市に聞いてみましたが、それといった課題はないと言っていた

しいて言うなら、そこに行くまでの間に小中学校の先生は不安を抱えていた

大丈夫なのか？それが大きな課題になっていた

始まるとそのようなことは言ってもらえないし、半年もする内に良かったねと、そこまでに至るまで非常に不安である

質疑応答

PTAはどう運営されているのでしょうか

義務教育学校はPTAは一つである

先生の負荷をいかに下げられるか
小中一貫校と義務教育学校とは先生方の業務課程は変わるものなのか

先生の負荷の部分ということでは、いろいろお話を伺っている中で差はほとんどない
子供たちにとって行っていることは同じことで、それがそれぞれの学校の違いだけである
城山小中学校でいうと義務教育学校ではないがやっていることは義務教育学校と同じことをしている

義務教育学校の準備期間がどれくらいあってスタートしているのか

準備期間については情報として聞けていないので、確認次第にお知らせする

参考資料「内外教育」2025.3.4から

■ 石川県珠洲市立宝立小中学校

小学校へ入学したところから卒業するまでの9年間に、ふるさとを題材にして学ぶ「ふるさと珠洲科」の学習を実施している

その学習を通してふるさとへの誇りと愛着を育むことを目的としている

長瀬町に置き換えれば、その地域の良さであったり課題や問題点であったりそれを小学校段階から系統的に学び、そしてそれが卒業した後も地域活動や町おこしなどに繋がっていくのではないかと
いうことが期待できる

日高市ではそれを意識している

人口減少であったりそういったところに現実的な課題について、小中学校段階で取り組んでいきたいということが書かれている

2. 坂戸市と日高市の学校視察について

■坂戸市 城山学園（小中一貫型小学校・中学校）

日時:令和7年5月16日

参加人数:11名

長瀬町教育委員会 2名 検討委員会委員 9名

坂戸市教育委員会 2名 城山学園教職員 2名

内容:資料説明、学校見学、質疑応答

■日高市 武蔵台小中学校（義務教育学校）

日時:令和7年5月21日

参加人数: 9名

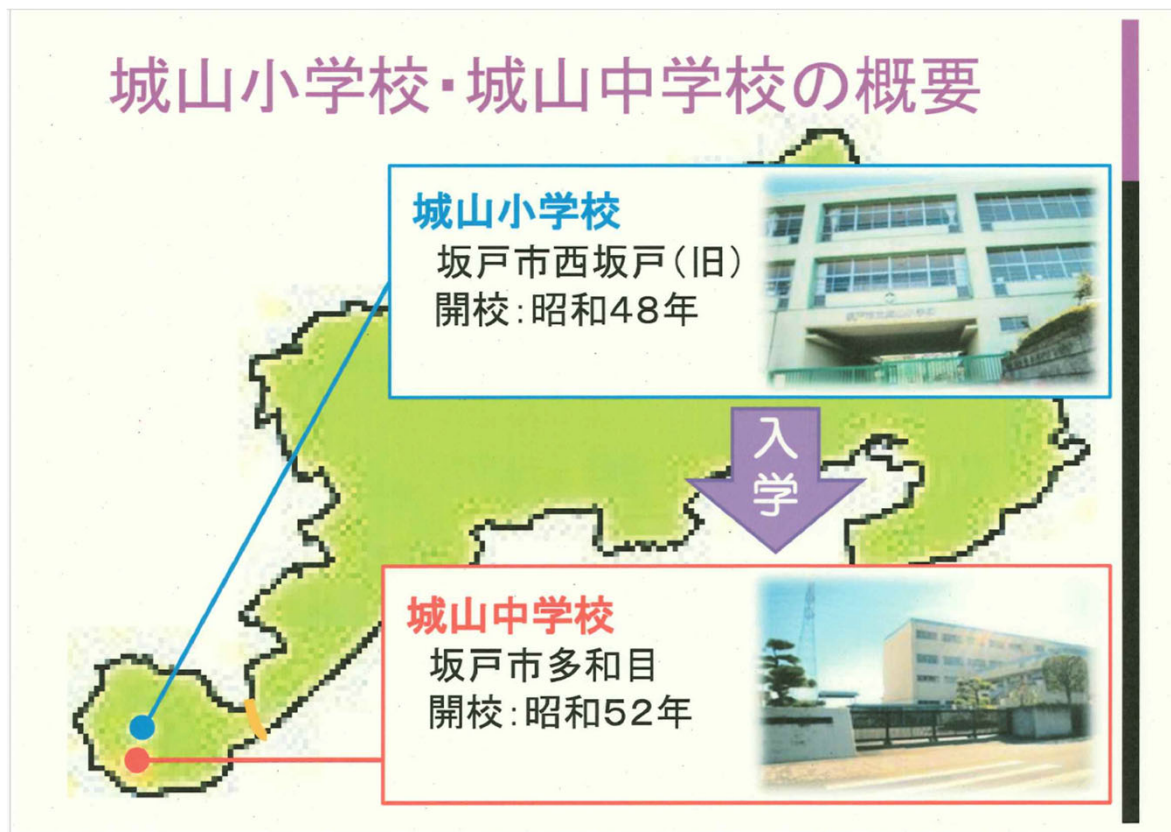
長瀬町教育委員会 3名 検討委員会委員 6名

日高市教育委員会 2名 武蔵台小中学校教職員 2名

内容:資料説明、学校見学、質疑応答

■坂戸市 城山学園 (小中一貫型小学校・中学校)

資料説明



西坂戸 城山小学校 現在は廃校
跡地利用は今後の課題として未だ保留

現在は城山中学校に小も中もいるという状況

1 開校までの経緯

H20.3 坂戸市いきいき学舎検討委員会提言
「坂戸市の学校教育の在り方について」

H23.4 城山小・中学校 小中一貫教育開始

H23.5 城山小・中学校小中一貫教育検証
委員会発足

- ・H23.10 第1次報告
- ・H25. 3 第2次報告

H25～ 小中一貫教育校開校準備

- ・地区説明会 ・庁内調整会議
- ・設置条例及び管理規則の一部改正
- ・城山中学校の改修・通学路の整備
- ・城山小の引っ越し・教育課程の整備
- ・埼玉県へ届出(小学校位置変更)等

H27年4月 城山学園開校

連携型 H23～



施設一体型

H27～



実際の会議はH18年より開始されている

H18 参加対象

学校関係者
保護者
市長
委員組織

一小一中で同じ学区の為
小中一貫校のモデルとして対象になる

H23 参加対象

両方のPTA会長
校長先生
教頭先生
学校協議委員

H25

中学校にて一体型にすると決定

坂戸市いきいき学舎検討委員会

(H18.10～H20.2)

委員

15名（区長、PTA連合会、校長会、公募 等）

開催回数

10回（委員会9回、先進地視察1回）

内容

- ・小中一貫教育の在り方
- ・公立小・中学校の適正規模及び適正配置の在り方
- ・その他坂戸市教育委員会が必要と認める事項

■ H20.3.27 提言「坂戸市の学校教育の在り方について」 ■

【抜粋】小中連携を深めていく中で、現状の立地条件を鑑みて、城山小学校と城山中学校は、同じ敷地内で学校生活を行う小中一貫校の「施設一体型」のモデル校として小中一貫教育を推進していく。

城山小・中学校小中一貫教育検証委員会

(H23.5～H25.3)

委員

10名

開催回数

10回

内容

施設一体型小中一貫校の設立に向けた検証

■ H23.10.28 第1次報告

【抜粋】施設一体型の小中一貫校として総合的に考えた場合、校庭の位置や広さ、教育活動の円滑な実施等の視点から中学校を使用することが適切・・・（省略）

■ H25. 3.21 第2次報告

【抜粋】城山中学校の校舎等を活用した施設一体型小中一貫教育の開校は、・・・（省略）・・・教育的な見地から、児童・生徒、保護者、地域にとって有意義であると考え。・・・（省略）

城山小学校は校舎がドーナッツ形状のようになっていて
100段の階段を経由して校庭へつながる導線だった

2クラス→単級になっていた

2 開校に向けての環境整備

保護者・地域との連携

- ・ 地区説明会の開催（3回開催）
 - 1回目・・・H23.8.22 会場：城山小学校
 - 2回目・・・H23.8.24 会場：城山中学校
 - 3回目・・・H25.8.28 会場：城山公民館
- ・ 開校準備委員会（学校・PTA・地区代表）
 - シンボルマークや学園歌、中学校の制服の変更、
 - 年間行事計画等を協議し決定



法の整備

H26年6月議会	坂戸市立学校の設置及び管理に関する条例一部改正議決（城山小を城山中の敷地内へ位置変更）
H26年8月教育委員会会議	坂戸市立小・中学校管理規則一部改正議決（小中一貫教育校 城山学園 規定）
H27年2月	埼玉県へ城山小位置変更の届出

2 開校に向けての環境整備

施設等の整備

- ・ 小中一貫校整備工事（平成25年度～26年度）
 - 【職員室・給食室・プール・遊具等の整備】 72,958千円
- ・ 軽量鉄骨校舎賃貸借（H27.4.1～R7.3.31） 119,880千円
- ・ 城山小備品移転及び廃棄（H26.7.30～H27.3.31） 4,120千円

通学路の整備

- ・ 通学路の防護柵の設置
- ・ 信号機の設置
- ・ ガードパイプの設置
- ・ 歩道上の電柱の移設
- ・ 横断歩道の設置



軽量鉄骨校舎（小1～小4）

職員室の拡張（用務員室を事務室へ）・電話数変更
 給食室 小学校の換気扇フード移設・屋上防水工事
 プール 一部20cm程かさ上げ工事・コースライン引き直し
 校庭 小学校遊具の移設

軽量鉄骨校舎賃貸借（プレハブ校舎）
 リース→無償譲渡 契約
 H27.4～R7.03.31 リース
 R07.4～R7.12.31 再リース
 R8～ 無償譲渡

成果

- 教職員の兼務発令により、小学校高学年の教科担任制やTTの拡大が図れる。
- 校長兼務のため、定数内で1名多く配置され、多くの教員の目で子ども達を見られる。
- 中1ギャップの解消が図られている。

TT(チームティーチング)
複数の教師が協力して行う授業方式の一つ

中一ギャップによる不登校事例は無い

課題

- 小中兼務の校長の負担軽減
- 義務教育学校の設置について検討

研究成果による効果によっては今後の
義務教育学校へのシフトチェンジも視野に入れている

特徴

- ・施設一体型の為、中学生が小学生の良いお手本になっている
 - ・地域住民からの評判が良い
 - ・不安要素無く中学への進級を感じている
 - ・生徒一人ひとりに目が行き届く(一番多いクラスで18名)
 - ・中学校教員が小学校高学年授業一部に関わっている
 - ・地元学校応援団 大学との連携
- 
- ・入学式、卒業式は1年～9年生全学年で行う
4月から中学生になる子供達は卒業式後1週間(終業式までの間)程学校に通い、中学校への準備期間としている
 - ・運動会、音楽会も1年～9年生全学年で行う
中学生(の歌声)から大きな影響力があると感じる
 - ・近隣住民の方々に通学路の除草・昇降口 植栽等の手入れ整備をボランティアにて行って頂いている
 - ・大豆造り体験 弓削田醤油
 - ・近隣大学の学生に来ていただいて合同部活動練習、校舎見学

特徴

- ・中学校教員が5・6年生の授業を受け持つ
50分授業、中学校教員に慣れてもらうことで中一ギャップ対策に繋がっている印象
- ・小学生5年生から部活動への参加を許可することで中学生との交流に繋げている
しかし、中学生数が少なく、部活動は成り立っていない背景もある
- ・文化部以外は小学生が所属している
人数による存続は今後の課題としている
近隣のチームと合同にての活動も行っている
- ・中学校は1クラス 各教科の先生の持ち時数が少ない
小学校には理科専科が在中
小学校専科指導の充実
- ・中学校にはスペシャルサポートルームがあり、毎日毎時間希望の授業を組んでいる

日課表 (金曜日の例)

	1～4学年	5・6学年	7～9学年
8:15	健康観察	職員朝会	
8:20	モジュールでの学習 (15分)	8:25朝の会 (10分)	
8:35	朝の会	授業準備 (10分)	
8:45	授業準備 (5分)		
8:50	1校時 (45分)	1校時 (50分)	
9:35	休み時間 (10分)		
9:45	2校時 (45分)	2校時 (50分)	
10:30	スポーツタイム (20分)	休み時間 (10分)	
10:35			
10:45	3校時 (45分)	3校時 (50分)	
10:50			
11:35	休み時間 (10分)		
11:45	4校時 (45分)	4校時 (50分)	
12:30	給食 (40分)	給食 (35分)	
12:35			
13:10	歯みがき (5分)		
13:15	清掃準備 (5分)		
13:20	清掃 (15分)		
13:35	昼休み (20分)		
13:50	5校時 (45分)	5校時 (50分)	
14:35	休み時間 (10分)		
14:45		休み時間 (10分)	
14:50	6校時 (45分)	6校時 (50分)	
15:30	帰りの会 (10分)		
15:40	下校	下校準備 (5分)	
15:45	放課	帰りの会 (10分)	
15:55			
16:05		部活動開始 (16:05)	
	・ロングの昼休み (毎週水曜 13:20-13:55)		

学校見学



質疑応答

通学についてはどのように変化がありましたか

従来と変わらず基本的に徒歩通学としている
一部特認校制度を採用(市内外からの生徒)
小学校 3名 保護者の送迎
中学校 2名 1名保護者の送迎 1名自転車(特例)

少人数での手厚い制度に魅力を感じている親御さんからの支持を感じている

西校舎プレハブについて

元々の中学校の規模感で賄えると思うがあえて建てた意図はなんですか

体の大きさに合わせたつくりとしている
水道の高さ、トイレ等、中学校仕様は暮らしづらいと判断したため

質疑応答

空き家になっている小学校の10年後はどうなっているイメージか
現状空き家になっている箇所があるとのことですが維持管理はどうなっていますか

教育委員会から現在離れてしまっている
定期的な警備等は確認できていない

そのままでもいいかというところに関しては地域住民の声はあるのではないかと感じている
市全体の課題として捉えている

小学校に限らず市内にある公共施設跡地に向けた跡地利用検討委員会があります
そちらで協議していく形になります

当初施設が小学校、中学校で分離していたと思うがH27から一体型になった経緯は何かありますか

H20に施設一体型のモデル校がいいのではないかと提言が出てきたところから始まっている

質疑応答

校長先生がこの規模での兼務が続き、慣れてしまい、このままで良いのではないかと教育委員会であった場合、教頭への委任の可能性はありますか

教育委員会から

現校長で4代目となるが決裁について軽微なものは兼務している

代理出席が許可されていない研修等は見直して頂きたいと感じている

時間外勤務について、80時間を超える等は現状無しで副校長などの検討はしていない

校長先生から

教務主任がいる為、協力し合っている

小学校文化、中学校文化が未だあり日課表等など完全に一体化し工夫、改善など行っていきたい

質疑応答

現時点では義務教育学校への移行していく必然性は感じていないというお話から先生達の目線、子供達の目線では移行への考えはどういうものがありますか

義務教育学校への取り組みはまだ走り出しているという印象がある
こちらではあんまり知見が得られていない

義務教育学校の良さは教育課程を変えられることだと思っているが
実績による良さ等の判断材料がまだ得られていない

今のところはこのままでも良いと思っている
もしも10年前の検討会での義務教育学校という選択肢があった場合には義務教育学校になっていた可能性も考えられる

質疑応答

最大の課題はなんですか

教育委員会から

人数の少なさへの課題
部活動に活発化が難しい
市役所があるなど違いアクセスがしづらい

クラス替えができない
固定された人間関係によって気分を変えたりが難しい

校長先生から

地域制も併せて家庭の事情も様々で
協力を得辛い生徒も中にはいる為、
生徒指導等で苦慮するケースもある

小学校の内容の提案、中学校の内容の提案、
小中合同の内容の提案をまとめるのに時間が掛かる

動きが違うため教員全員が揃う時間が無い。朝、放課後等に会議や意見交換の場を作りづらい

小学校の先生の生徒に対する思い、中学校の先生の生徒に対する思いの違い、
運動会にしてもそれぞれ先生方の思いを抑えて頂いたり、説得して頂いたり積み上げてきたもの、
今の形に収まるまでに11年目で自然になっていった
義務教育となるとまた別ですが折り合いを付けていくことが大切

■日高市 武蔵台小中学校（義務教育学校）

- 資料説明
- ・義務教育学校 開校までの歩み
 - ・武蔵台小中学校の今
 - ・今後の構想

開校準備にあたって

やるべきこと・やらなければならないこと教育課程を編成する

- ・日課表
- ・カリキュラム
- ・学校行事
- ・年間計画表
- ・PTA組織再編
- ・校歌どうする
- ・校章どうする
- ・記念品、記念誌どうする
- ・体育着どうする
- ・制服どうする
- ・教室配置は・・・
- ・職員室の座席配置は・・・
- ・引っ越し作業はどうする

校児童生徒が写った写真を載せたい・時計 保護者、地域住民への相談
3種類作成 保護者会・QRコードで保護者向けにアンケートを行った
制服検討委員会 教職員、保護者 最終決定は校長

当初前期後期分かれていたが現在は合同



■日高市 武蔵台小中学校（義務教育学校）

資料説明

意識改革

工程表を作成し教員同士で共有
学校の未来像を示す
いつまでに何を
不安要素の共有

全てをゼロベースで考える
県内県外に無い新しい学校を作る



学校見学



質疑応答

城山学園を視察後に参考にした点等がありますか
その他検討した事案がありますか

城山学園含め、浅野学園含め、義務教育学校、小中一貫校どちらも視察した結果
先生方の意識の違い、小学校には小学校の文化、中学校には中学校の文化がある

その文化の違いを割ることが生徒達にとって一番都合が良いことなのかどうか考えた時に
日高市の場合はそれを一緒にすることによって1人の校長で
1年生～9年生までカリキュラムを組んでお互いに助け合ったりするということを意図してやってきた

先生方の意識改革、教職員の色々な意見を取り入れていきながら1つの大きなまとまりを作り上げた
ここが一番の大きな違いだと思います

ただ城山学園の教育を中に入って体験したわけではないのでなんとも言えませんが
日高市はそっちの方がやりやすい、先生方の意識が向きやすい
そういうかたちで義務教育学校にしたというのがあります

質疑応答

日高市が6地区の小中一貫教育を進める中で3つの義務教育学校、3つの小中一貫教育の流れで今に至りますが、規模の問題で義務教育学校にならなかったとのことですが、いずれは移行していくのでしょうか

いずれR10、20年、人数が減っていけば統合の話も現在出ています
現在ある施設を生かすという面で現状は人数が減ってきてからの検討としています

名称が義務教育学校(後期)になっていない点について

子供たちにとって義務教育学校は長すぎる
「義務教育学校」「小中一貫教育校」等は冠称として使用している

新しい教科、ふるさと科について
郷土に対する誇りなどは芽生えていますか

本校生徒はほとんどが団地から通学している
保護者の方々はほとんど地域の特性を知らない中で、昨年の活動を通して生徒達の感想を見る限り、
地域の特性を知ることが出来たと感じている
今後は発展させて未来を提言させていくことが課題

質疑応答

ふるさと科は週何時間と決まっていますか

生活科と総合科を合わせている
年間約70時間として行っている

運動会での退屈を感じない様にしている工夫はありますか

基本午前中での開催としている
1年生の種目の時は9年生が補助にあたる
リレーなど全学年合同の種目も取り入れている為、退屈を感じない様にしている

PTAについて小学校、中学校で体制の違いはどのように解決しましたか

開校前年度に「持続可能なPTAにしよう」を前提とし、
出来る人は出来ることをやって、負担をかけない様にしよう
内容の見直しをした上で必要最小限のピックアップ、すり合わせを行いました
どちらに合わせるという考えではなく、ゼロベースで1から考え直しました

質疑応答

義務教育学校、小中一貫校どちらにするかの議論の中で
「1つの学校としてやるのが大事なこと」としていましたが1番の課題としていたことはなんですか

子供達はすぐに順応できたが教職員の意識が向きづらいというのがあった

品川学園にR2視察時に校長先生が言っていたのは
やはりどうしても教職員同士がギクシャクしてしまうという点がある

中学校教員が部活に出る時に小学校教員がお菓子を食べている
小学生がうるさい
という声が聞こえてくることを問題視していた

「1つの学校」であればそのような問題は起こらないのではないかと考えた
開校時から伝え続けることで次第に先生方の意識が徐々に変わっていった
そのような意識改革は行っている

質疑応答

教員免許への弊害はありますか

特に感じてはいません

日高市全体にて希望者へは通信制度や夏休みの集中講座など助成金制度があります

開校1年を経て制服自由化について保護者の意見はどんな内容ですか

開校後約半年後に保護者向けアンケートを行った結果、
心配な点として「正装が分かりにくい」という意見があり、行う上で課題として
1つは冠婚葬祭(TPO)についてこうしなければならないという指導ではなく、
どう思うかを投げかけ、問いかけを行っている

中学3年生はどのような服装で入試に行きますか

今までの制服やお下がり等、いっさい制服が無い生徒については
制服もどきを提案、保護者支援できるよう準備途中です

昨年度の音楽会では8割が今までの制服やリサイクル品を身に着けていた

質疑応答

義務教育学校になってから不登校生徒についての変化や良かった点等がありますか

現時点で成果といえるものはありませんが、教員側としては全職員が把握できる状況になったといえる

全生徒と全教職員が関わる様に制度が成り立っているので
今後不登校生徒の数も減っていくのではないかと考えている